

21世紀型コミュニケーション力の育成

—各教科等の能力表（カリキュラム骨子）の作成と実践報告—

金沢星稜大学 教授 村井 万寿夫

murai@seiryu-u.ac.jp

船橋市立若松小学校 教頭 秋元 大輔

dds1@yahoo.co.jp

柏市立教育研究所 指導主事 佐和 伸明

sawan@tbi.t-com.ne.jp

鳥取県教育センター 研修主事 岩崎 有朋

mimi0712@gmail.com

キーワード：言語活動、情報活用能力、コミュニケーション力、能力表、学習活動案

1. はじめに

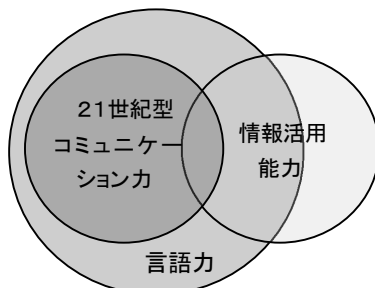
財団法人コンピュータ教育開発センターでは、21世紀型コミュニケーション力は、新学習指導要領の重要な視点である「言語活動の充実」に含まれると捉え、中川一史教授（放送大学）を代表として、2009年度にコミュニケーション力育成に向けたプロジェクト研究を開始した。当分科会では2010年度の活動について報告する。

2. 21世紀コミュニケーション力と言語活動

文部科学省の中央教育審議会答申では、「言語とは、『知的活動（論理や思考）の基盤』、『感性・情緒等の基盤』、『コミュニケーション能力の基盤』の3つを基盤とするものである」と示している。具体的には、「発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う必要がある」としている。

一方、「21世紀型コミュニケーション力」は、各教科などにおいて、説明、論述、討論するといった学習活動を充実することがコミュニケーション力育成につながるという立場であり、これは上述した言語活動を通じてコミュニケーション力の育成が図れると考える。

よって、「21世紀型コミュニケーション力」は、下図のように、言語活動の基盤といわれる情報活用能力とも交わる部分を持ちながら、言語活動に「21世紀型コミュニケーション力」が含まれる活動と位置づけられると考えたのである。



学習指導要領には各教科・領域に言語活動に関する内容が様々な場面で取り入れられており、言語活動を取り入れた授業を構成し実践していくことが、21世紀型コミュニケーション力を育成していくものと考えられる。

3. 統一した能力表の検討・作成

(1) コミュニケーション行為の分類と定義

各教科等において説明、論述、討論するといった学習活動を充実することがコミュニケーション力育成につながるという立場から、コミュニケーションの行為をもとに「対話」「交流」「討論」「説得・納得」に分類した。さらに、それらの定義付けを行った（表1）。

(2) コミュニケーション能力表の作成

コミュニケーション行為に共通した言語活動の具体を「聞く・わかる」と「話す・伝える」の2側面から捉え、コミュニケーション行為の「初期」から「達成」までを段階的に位置づけた（表1）。

4. 能力表の作成と具体例の作成

(1) 国語科のコミュニケーション学習活動

小学校学習指導要領解説国語編をもとに21世紀型コミュニケーション能力表に埋め込むことができる学習活動を洗い出し、国語科の能力表（カリキュラム骨子）を作成した。さらに、実際の学習活動を具体化するための活動案を作成した。

(2) 各教科等の洗い出しと具体例の作成

国語科の能力表をもとに、各教科・領域における学習活動の洗い出しを行い、21世紀型コミュニケーション能力表（カリキュラム骨子）と活動案を作成した。

5. 21世紀型コミュニケーション力育成の実践

(1) 小学校の学校研究として実践するために

学校内の研究テーマとして、「伝え合う力」「コミュニケーション力」などの育成を目指している学校は多い。しかし、コミュニケーション活動において、求められる児童の具体的な姿について共通理解されていないと、研究として深まっていけないことがある。そこで、21世紀型コミュニケーション力の理論を校内研究に取り入れることで、コミュニケーションのねらいと、達成するためのレベル（対話、交流、討論、説得・納得）について、共通理解することができるようになる。

その上で授業実践を見合うことで、学校としての改善のポイントを明確にすることができる。

コミュニケーション力は一つの学年や教科、単元等で身に付くものではない。学校研究のテーマにするの

表1 21世紀型コミュニケーション能力表（各教科共通のカリキュラム骨子）

対 話		交 流		討 論		説得・納得	
考えを出し合い、お互いの考えを明らかにする		考えを出し合い、相手の意見を聞いて相手のことを理解する		相手の考えと自分の考えを比較検討したり意見交換したりする		自分の伝えたいこと論理的に話したり、相手の考えを理解して受け入れたりして、共通理解を深める	
聞く・わかる	話す・伝える	聞く・わかる	聞く・わかる	話す・伝える	話す・伝える	聞く・わかる	話す・伝える
相手の考えを聞く	自分の考えを持つ	相手の考えを聞く	相手の考えを聞く	自分の考えを持つ	自分の考えを持つ	相手の考えを聞く	自分の考えを持つ
相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す	相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す	相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す	相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す
		相手の考えに共感しながら聞く	相手の話を受けて話したり聞いたりする	相手の考えに共感しながら聞く	相手の話を受けて話したり聞いたりする	相手の考えに共感しながら聞く	相手の話を受けて話したり聞いたりする
		相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	お互いの考えを整理し、目的や立場に応じて伝える	相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	お互いの考えを整理し、目的や立場に応じて伝える	相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	お互いの考えを整理し、目的や立場に応じて伝える
				相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する	同じところや異なったところを確認しあう	相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する	同じところや異なったところを確認しあう
				話題について多様な考えを出し合い、考えを確かにする	話題について多様な考えを出し合い、考えを深める	話題について多様な考えを出し合い、考えを確かにする	話題について多様な考えを出し合い、考えを深める
						自分の考えが分かってもらえたか相手の発言や表情で確認し、新たな説明の仕方を検討する	筋道立った説明をしようとしているか再考し、相手に伝える
						議論について多面的な意見を出し合いながら、共通理解を深める。	自分の経験やものの例えを用いて相手を説き伏せる

----- 協調的レベル -----> ----- 主張的レベル ----->

であれば、コミュニケーション力を体系的にはぐくむためのカリキュラムが必要となる。また、学びが深まる授業をデザインする力を付けることが重要になる。

(2) 中学校の理科での実践例

3年理科「地球と宇宙」の授業で、単元のまとめの段階に「説得・納得」を取り入れた授業を行った。

天体に関する5つの課題について、デジタルコンテンツ・地球儀・金星モデル等を使って、生徒が自分の言葉で説明する。説明する相手は教師である。

1課題1名で、担当は直前のくじで決める。台本無しで、教師の追加質問にも応える。説明がダメなら班全員がやり直し。この条件により、生徒には強烈な切実感が生まれ、分かったふりでは済ませなくなった。

自分の解釈を班員に説明し、また、ある生徒は質問

を返すなど、半わがりの部分をなくし、説明できるようになるために必死で取り組んでいた。ようやく準備をして教師に説明しても教師の質問に回答できず、やり直しになる班を見て、相手を説得・納得させることの難しさを痛感していた。一方、自分の言葉で説明した経験は、テスト時に話し合いや説明シーンとして蘇り、自分の体験として答えることができた生徒はコメントしていた。相手を説得し、お互いが納得できる理解に至る学習として非常に効果的であった。

6. 研究成果をまとめて出版

2年間のプロジェクト研究の成果を「コミュニケーション力指導の手引き」としてまとめ、出版した。